

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200667		
法人名	(有)三輝		
事業所名	グループホーム米山		
所在地	登米市米山町善王寺相ノ田30-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年12月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山に囲まれ季節を肌で感じる事が出来る事が1番のアピールできるポイントだと思います。天気が良ければ入居者様と連れ立って散歩やドライブにも行き穏やかに日々を送る事を1番に考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は『有限会社三輝』で2003年に設立され、登米市と加美町で2つのグループホームを運営している。ホームは高台に位置し、四季折々の自然豊かな環境を感じられる中にある。近くの「平筒沼ふれあい公園」は、利用者の馴染みの憩いの場所となっている。ホームの理念「一人一人を尊重し思いやりの心をもって 明るく楽しく笑顔で 地域と共に 生活する」を掲げ、職員は利用者の趣味や生活歴を尊重し、意向を把握し生活に取り入れながら、穏やかに生活ができるよう努めている。管理者は職員の意見・要望に耳を傾け、働きやすい職場環境作りを目指している。協力医療機関がかかりつけ医の利用者が多く、訪問診療を受け、訪問看護師が健康管理を行っている。また、近隣の施設や自主防災会と災害応援協定を結び非常時に連携ができること、グループホーム連絡協議会に加入し研修会等を通し非常時に連絡を取り合える関係性を築いたり、避難訓練には区長や地域住民からの協力体制が得られること等、様々な結びつきを活用し取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23、24、25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9、10、19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18、38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2、20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36、37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11、12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30、31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム米山 ）「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は台所、事務所と常に目に付くところに提示し介護理念を念頭に仕事をしている。	ホームの理念は3項目からなり、事務所と台所に掲示し、4月の職員会議で振り返り確認している。利用者の生活歴や趣味を聞き、ホームでの生活や活動に反映できるよう取り組んでいる。親しみやすい声掛けや会話を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体の会員となっており清掃活動等に参加し地域の皆さんと交流をもっている。	地域自治会に加入しており、回覧が届き情報を得ている。地域の敬老会の際にはプレゼントが届き、利用者の楽しみとなっている。例年は地域の清掃活動や防災訓練、婦人部の食事に参加していたが、コロナ禍のため現在は中止している。ホームの避難訓練には地域住民や区長が参加し協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時のに施設で出来る支援内容を職員、の代表(区長、民生員)と運営推進会議等で話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施していたがコロナ禍という事もあり現在は開催出来ない。来年早々に開催を検討している。	2ヶ月毎に市職員や地域包括職員、区長や民生委員、近隣住民の代表が参加し開催していた。ホーム行事、ヒヤリハットや事故事例、入居者の状況等を報告し助言を得て運営に活かしていた。コロナ禍で中止していたが早期開催を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業で分からない事は電話等で指導頂いている。	市職員が運営推進会議に参加しアドバイスを得ていた。オンライン研修の案内が届くが、夜間の研修が多く参加が難しい。生活保護受給の利用者の状況や保険の切り替え等の相談を行い日常的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会をしたりしている。玄関等日中は施錠はしてはいない。	施設長、管理者、防災管理者からなる委員会を設置している。身体拘束適正化のための指針が作成されており、ケア会議で事例を上げ検討しながら改善に繋げている。外出希望があれば職員が同行し、気分転換を図っている。玄関施錠は19:00～翌朝7:00迄である。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士の介護に注意し虐待が見過ごされないように注意している。	職員は利用者に対し、命令的な口調、威圧的な言葉遣いにならないよう気を付けて、穏やかな口調で利用者と会話することを心掛けている。管理者は職員の精神的な負担軽減にも配慮し、休憩時間等に話を聞いている。	虐待防止について検討する委員会を設置し、研修が計画的に行われ、更に職員の理解が深められることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が財団管理(シニアパートナーズ)を利用して円滑に利用出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除などは家族に十分に説明を行い疑問や不安の解消に努め納得がいくまで話し合いトラブルにならないように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回無記名でアンケートを実施し結果は運営推進会議やケア会議で公表、話し合いを持っている。	ホームとして家族アンケートを実施しており、結果を参考にし、運営の改善に繋げている。月1回の支払いの際に来訪した家族から意見・要望を聞いている。家族からの要望で編み物や塗り絵等、日々の活動に取り入れている。月1回、家族宛に手紙で近況を伝え、ホーム行事や日常活動の写真も時々添え送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケア会議を開催し職員の意見等を聞く機会を設けたり代表や施設長が週1回来所するので話を聞く機会がある。	ケア会議等で職員が自由に意見を言えるように配慮し、出された意見は検討し運営に活かしている。社長や施設長が、職員の意見を聞く機会を設けている。職員からの要望で、夜勤手当をアップした。職員の希望を考慮し、4つの係を分担し主体的に運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事担当の当番制や勤務割の当番制等で職員全員が役割を分担する事で責任ややりがいを持てるようにし取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や防火管理者研修、上級救命研修など毎年1名~2名が研修が受けられるようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。勉強会で学んできた事を職員間で共用している。	グループホーム連絡協議会に加入し認知症についての研修会や他事業所と情報交換を行っている。現在はオンラインによる研修会に参加している。近隣の施設や自主防災会と災害応援協定を結び、災害時の対応について連携する体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前訪問や実態調査を行い本人、家族の困っている事や不安に思っている事の把握に努め本人、家族の安心出来る環境作りをする事で信頼関係を気づく事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族が困っている事こと、不安、要望等の聞き取りに時間を取信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に合わせ、他のサービスについても時間を十分とり相談対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図る事で調理等で教わるも多くあり掃除、食器洗い、下膳等手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事、花見、芋煮会、紅葉見物等、毎月手紙で参加の呼びかけを行い出来る範囲で参加頂いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙等で家族と連絡を取り出来る範囲でふるさと訪問や自宅訪問等も行っている。	コロナ禍前は、家族や馴染みの人が訪問していた。現在は、手紙や電話で交流している。利用者の希望で感染対策を徹底し、近くの大型店に買い物に行ったり、近所に散髪や食事に出掛けることもある。天気の良い時は、近所を散歩し季節を感じながら気分転換をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の交流を深める事で1人が孤立しないよう職員間で情報を共有し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の交流は家族の意向があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の趣味、趣向はもちろん、希望や意向についても本人より聞き取りを行い意向に添える様に職員、家族で検討している。	日常の関わりの中で利用者からの要望・意向を把握し、活動や食事の献立に反映させている。趣味の編み物や録画したドラマ鑑賞等を楽しんだり、食べたい物は業者のメニューを変更して提供したり、行きたい所には個別で対応し希望に沿えるよう取り組んでいる。入浴時など、一対一でゆっくり話せる環境での会話を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、入所後も本人、家族より聞き取りを行い生活歴などの把握に努めている。日常の会話の中から分かる生活歴もあるので普段の会話も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の小さい変化も見落とさないよう職員間での情報の共有、理解に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の質の向上、自立の促進等も含め個々にあったケアプランを作成する為、本人や家族の意向、要望を十分に踏まえケアプランを作成している。	担当職員制を設けている。ケア会議等では担当職員を中心に情報報告や意見を出し、家族からの要望や医師からの意見も参考に介護計画を作成している。支払い時など家族が来訪した際に説明し、同意を得ている。介護計画には、利用者のできることと、できないことを見極めた上で、生活の質の向上や自立促進に繋がるような項目を盛り込んで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を作成し情報の共有、理解に努めている。その中での気遣いや変化を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間等に制限せず家族の都合に合わせて面会、外出、外泊等して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と契約を結び週1回に看護師の訪問と月1回の往診の協力を頂いている。	全利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、月1回、医師の訪問診療を受診している。週1回、看護師が訪問し健康管理を行っている。3ヶ月毎に採血し利用者の状態を確認している。皮膚科や整形外科等の受診の際は、職員が通院介助し、家族には状態の変化等、受診報告をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師の訪問がありバイタルチェック、定期的に採血等を行い入居者様の体調の変化に気をつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時、家族と共にカンファレンスに参加し情報交換している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師と話し合いを行い適切な対応が出来るように支援している。	看取りに関する指針が作成されており、入居時に本人・家族に説明し、希望や意思の確認を行い、同意を得ている。食事が摂れなくなり終末期と医師が判断した際には改めて説明を行い、医師の指示で家族が訪問看護師と契約を結び24時間連携が取れる体制を作り、ケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の可能性のある入居者様は家族と話し合いを持ち対応マニュアルを作成しそれに添って対応している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。(内1回は消防立ち合い)上級救命の研修にも年1名~2名参加している。	火災、地震のマニュアルを作成し、ハザードマップを掲示している。年2回の内、1回は消防署立会いで避難訓練を行っている。夜間対応訓練では、担当を輪番制にし、全職員が対応できるように取り組んでいる。市が無償貸与した緊急告知ラジオ(市が緊急情報を放送する際は、自動的にラジオの電源が入り情報が得られる。)を設置している。消火器を3台配置し定期点検を行い、非常食は1週間分備蓄している。感染症対策として定時に小まめに消毒を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー情報は個人のファイルに綴じ扉のあるスチール棚で管理している。	名前に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際はノックで確認し、声掛けしてから入室している。羞恥心への配慮として小声で対応したり、入浴介助時には着脱後、浴槽で待機し視線にも配慮しながらケアに努めている。利用者の尊厳を損ねないよう意識した、言葉遣いも心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、行事への参加は本人に決定してもらえようような声掛け、参加の促しをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向の把握に努め可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、化粧品等自身の好みの物を選んで購入出来るように援助している。顔剃りや染毛なども出来る範囲でお手伝いしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食など入居者様と一緒にメニューを考えたり調理をしたりしている。	業者が提供している献立を取り入れており、行事食も盛り込まれ、カロリー計算もされている。利用者の希望を聞きメニューを変更する場合もある。誕生日には手作りケーキで祝っている。利用者は、テーブル拭き等できることを担っている。座席は食べる速度に配慮して分けている。状態にあわせ、刻み食などにも対応している。コロナ禍で黙食をしているため、テレビ等で場を和ませるなど、出来るだけ楽しい食事になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたメニューで対応している。個人の状態に合わせた形態で対応している。(お粥、刻み、極刻み)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人一人の状態に合わせて職員が付き添い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の状態に合わせてトイレ誘導を行い失敗のない排泄を支援している。夜間リハビリパンツを使用するなど状態に合わせて本人も安心出来る対応をしている。	排泄の自立を促し、自立、トイレ誘導、見守り、一部介助等、一人ひとりの状態に合わせて支援している。夜間帯は、定期的な誘導、パットやおむつ交換等に対応している。便秘対策としては、水分量を多めに摂取したり、必要に応じて医師から処方された薬を飲んで	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声掛けや提供、食事の際の野菜を取るように声掛け等行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	年齢を考慮し2日おきの入浴となっている。入浴するしないはご本人に任せている。	利用者の希望を考慮し、2日置きに午後の時間帯に入浴している。柚子湯や菖蒲湯等、季節湯を楽しむこともある。入浴を嫌がる時は無理強いせず、タイミングを見計らい声掛けしている。全身の状態も確認しながら、安全に留意し、ゆったりと入浴時間が楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活そのままに過ごされる入居者様もおり個々の思い通りに過ごされている。夜間帯、眠れないと話される入居者様には日中無理のない運動や他者と過ごされるようにアドバイスしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容が個人のファイルにありいつでも確認出来るようになっている。朝昼夕の準備、他入居者様と間違える事のないように袋に名前、朝昼夕と記入し食後に手渡しや口に入れ服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下膳、テーブル拭き、食器洗い等、役割分担し手伝って頂いている。又、個々で嗜好品の購入や毛糸の購入等対応している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の付き添い、個々の買い物の付き添い受診の付き添いなど対応している。	行事計画を立て、お花見や平筒沼の散歩等を行っている。日常的には近所を散歩したり、近くの施設にパンを買いに出掛けている。福祉車両があり車いすの利用者も一緒に出掛けることができる。コロナ禍で全体での外出は控えており、担当職員と個別にドライブする等、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の状態に応じて自己管理されている入居者様もおり買い物等付き添いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい時には職員がダイヤルし確認後本人に渡している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓に季節の花を飾ったり自室前に季節に合わせた飾りをしている。	ホールは、ゆったりと寛げる十分な広さがあり、2ヶ所の天窗から陽射しが入り明るい。壁には行事の写真や利用者と一緒に作成した季節に合わせた掲示物が飾られている。冬季は室温を27度に設定し、加湿器や洗濯物を部屋干しし湿度を調整している。24時間の換気にも配慮し、昼食後の清掃の際や定時に細目に消毒も実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で思い思いに過ごされている。ソファで休まれる事ある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具やベット等持ち込み使用している。自分で作った作品が飾ってあり個性にあふれている。	全居室がくつろげるよう畳敷きで、エアコン、洗面台、クローゼット、ベッドが備え付けられている。利用者はテレビや机、タンス等を持ち込み、写真や小物、花等を飾り、思い思いに居心地の良い空間になるよう部屋作りをしている。毎朝職員が掃除を行い、季節毎の衣替え等は担当職員が利用者と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の移動用手すりを入居者様の身長に合わせ設置している。トイレ等分かりやすく表示している。		